

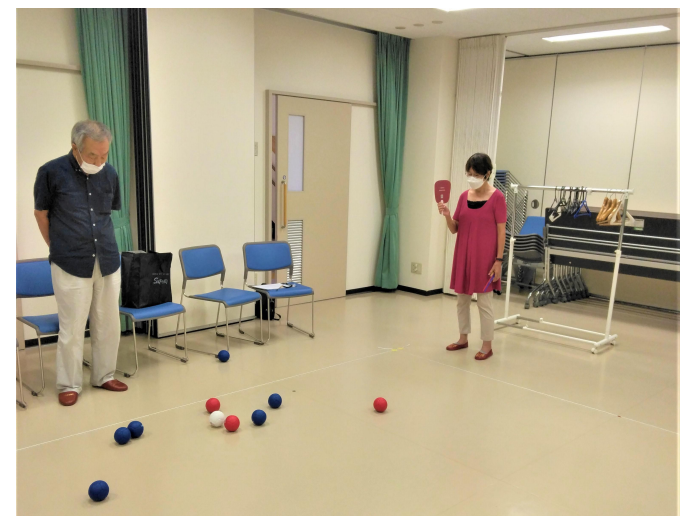
瑞穂鯨城会ポッチャ会 実施報告

1. 開催日時 令和5年8月26日(土) 13:00~15:00
2. 開催場所 瑞穂コミュニティセンター
3. 参加者 松井正幸さん、山川英二さん、坂本ツギエさん、
長谷川 巖さん、春日井幸子さん、若山ひろみさん
西谷陽子さん、中村吉雄 計8名

ポッチャとは、ジャンケンで勝った先攻が白色ジャックボールを投げ、次に赤色のボールを出るだけ白色ジャックボールに近づけるように投げ、その後で後攻が青色のボールを同じように白色ジャックボールに近づけるように投げ、それぞれ6球投げ白色ジャックボールに近い球数を競う競技です。

チームの人数は参加者人数により1人~3人と変更が可能で、我々は殆ど2名で行っています。カーリングのように相手のボールを弾き飛ばしたり、場合によっては白色ジャックボールを場外に押し出しセンターの指定場所に移動して、自分のチームに有利になるようにする等展開によっては逆転の連続が繰り返される場合もあり面白い競技です。

今年の16フェスティバルからポッチャも競技種目に取り上げられました。



ホームページ掲載後、瑞穂鯨城会会員の皆さん方に瑞穂鯨城会ポッチャ同好会募集案内をさせて貰いますので、是非とも応募して頂きますよう宜しくお願いします。

ボッチャ

[Boccia]

どれだけ多くの球を目標的 (ジャックボール) に近づけられるかを競う。チーム戦 (1チーム3人) は1エンド1人2球で6球。計6エンドで勝敗を決める

先攻 (赤)

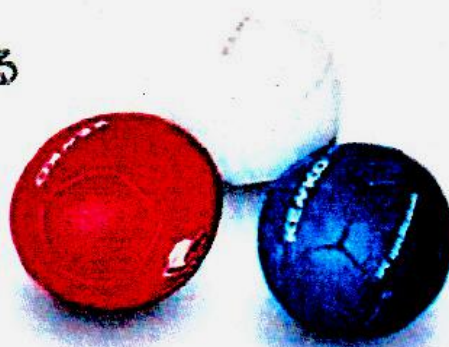
1 ジャックボールを投げる

2 持ち玉1個を投げる

後攻 (青)

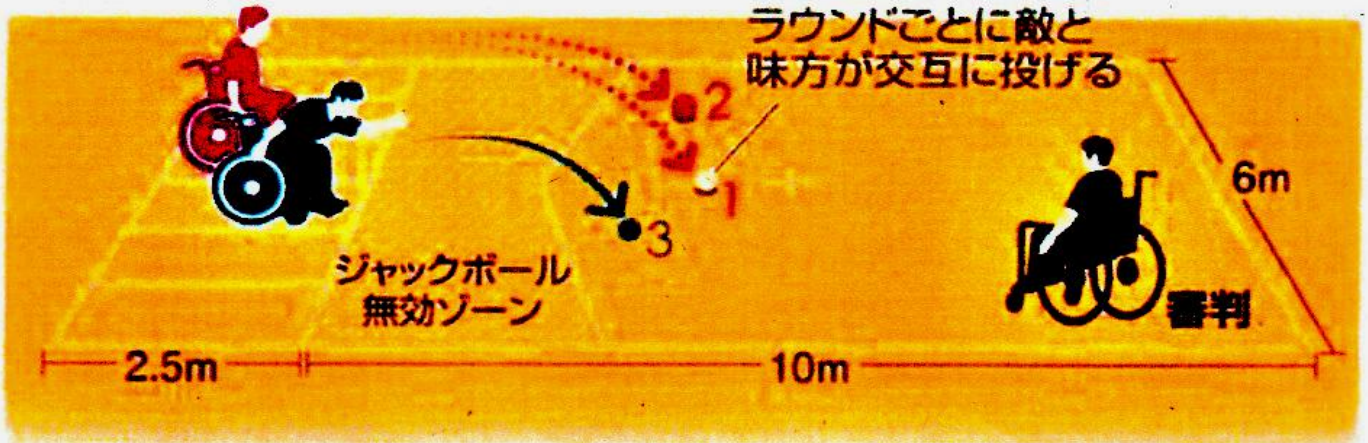
3 持ち玉1個を投げる

以後、ジャックボールに遠い方が球を投げていく



● ボールは275g (前後12gまでは可)
● 革製で、中にはプラスチックビーズが入っている

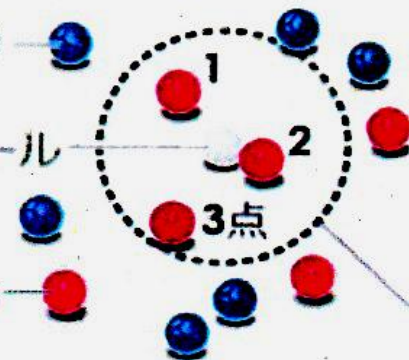
ジャックボール (白)
ラウンドごとに敵と味方が交互に投げる



負けチームのボール

ジャックボール

勝ちチームのボール



勝敗のルール

ジャックボールを中心に
負けたチームのボールの内側に、
いくつ勝ちチームのボールが
あるかで点数が決まる

このエンドの得点は ● 3-0 ●

- ヨーロッパで考案された重度脳性麻痺もしくは同程度の四肢重度機能障害をもつ人のための対戦型スポーツ。赤のサイドと青のサイドに分かれ、ジャックボール (目標球) と呼ばれる白いボールに向けて、選手が赤青各6個のボールを投げるあるいは転がす。ボールを手で持てない場合は、足で蹴るか、介助者の助けのもと勾配具 (ランプ) と呼ばれる補助器具を使ってボールを転がして競技を行なう。
- 試合開始後、まず先攻サイドがジャックボールを投げ入れ、両サイドがすべてのボールを投げ終える区切り (エンド) ごとに、ジャックボールに赤青ボールをより近づけた側に得点が与えられ、その合計得点を競う。ボールをジャックボールや相手サイドのボールにぶつけて移動させることで、自身のサイドの形勢を有利にすることもできる。
- 男女の別なく参加でき、試合形式は個人戦 (4エンド)、ペア戦 (4エンド)、3対3のチーム戦 (6エンド) があり、障害の程度によってクラス分けされる。
- ボッチャの起源は、古代ギリシアの球投げといわれ、6世紀にイタリアで今日に近いルールができた。20世紀に入り、重度障害者が参加できる競技スポーツとして整備され、世界中に広まった。1984年のニューヨーク/ストーク・マンデビル・パラリンピック競技大会で公開競技となり、1988年ソウル・パラリンピック競技大会で正式競技となった